

市内の小・中学校で英語を教えているA.L.T. (外国語指導助手)の皆さんが、久慈で生活して感じてきたことを紹介するコーナーです。

My life in Kuji



**ギムハニ・ミレイ・ペッターワドゥ**  
 オンタリオ州・26歳/久慈小、久慈湊小、夏井小、平山小、侍浜小、久慈中、夏井中、侍浜中、山形地区の小中学校を担当

大発見の毎日！

久慈に来てあっという間に3カ月が経ち、気付いたら年末年始が少しずつ近づいてきましたね！私も久慈での生活にだいが慣れてきました。仕事で山形町川井や来内周辺まで行くことがありますが、紅葉がきれい！山道や小川もきれいで、いつも景色を楽しみながら運転しています。

最近感動したことは、訪問からの帰り道にキジに遭遇したことです！運転中にキジが素早く道路を渡り「えっ？今、桃太郎に出てくる鳥が通ったよね？」と思わず心の中で叫んでしまいました！市役所に着くまでずっと「キジ？クジ？いやクジじゃないでしょ！」と独り言を言いながら運転。着いたら直ぐに検索しました。でも、安心してください！安全運転してます！（笑）このような大発見をするのが好きなので、毎日ワクワクしています！

年末年始に向けて慌ただしくなりますが、休みに向かって頑張りましょう！数カ月お世話になりました。令和8年もよろしくお祈りします。よいお年を！

市民

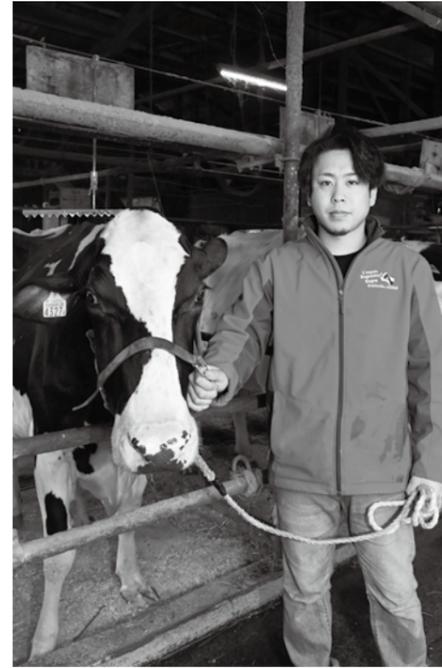
センターだより



大川目市民センター  
 ☎55-3250

大川目市民センター事業紹介  
 山口神楽観賞会

大川目小学校開校記念講演会として、小学校・PTA（根っこをつくる会）の協力をいただき地域に伝わる山口神楽の鑑賞会を開催しました。大川目町に古くから伝わる山口神楽は、かつて地域の祭りや行事を盛り上げる大切な郷土芸能でしたが、昭和30年代に一度途絶えました。平成16年に山根神楽保存会の指導をいただきながら復興に取り組み、備前の里夏祭りで舞を披露するまでに復活。郷土芸能を次世代に伝えることの難しさを感じつつも、地域の絆を再確認する貴重な経験となりました。今回の鑑賞会では、地域の人を含め約160人が来場。子どもたちや地域の皆さんに、迫力ある太鼓や笛や鉦の響きを間近で体感してもらい、地域文化の魅力を改めて感じていただけたと思います。今後は体験練習会などを実施し、子どもたちが学んだ成果を発表できる場を設けていく予定です。地域の皆さんにその成果を披露しながら伝統文化の魅力を広め、次世代の担い手育成につなげてまいります。



Name  
**外谷 友洋** さん  
 そとたに ともひろ (侍浜町・25歳)

Profile  
 外谷牧場勤務

きらり人輝く

家業の酪農を担い  
 全国大会で牧場初の優等賞を受賞

1歩ずつ成長していきたい

10月25日、26日に北海道で開催された第16回全日本ホルスタイン共進会の4歳級の14部で、各部門上位30位の最高賞、優等賞の9席を受賞した外谷さん。共進会や酪農への思いを伺いました。

酪農を志したきっかけ

小さい時から牛と触れ合いながら育ち、今まで家族が作り上げてきたものを引き継いでいきたいという思いで酪農の道を選びました。農業高等学校に進学し専門的に酪農を学習。卒業後は北海道の牧場へ1年間住み込みで研修をしました。生活面、仕事面ともに毎日のように指導してもらい、大きく成長できました。北海道での日々は人生の宝物になっています。現在は実家の外谷牧場で、家族とともに牛の世話をしています。

共進会への思い

10年前、父親が出品した全日本の共進会を見に行きました。そこで見た全国レベルの牛たちの姿を、今でも鮮明に覚えています。自分もいつか育てた牛を同じ舞台へ連れていくことが夢でした。

10年ぶりの全日本共進会の開催となる今年は、共進会のことを考

えない時間はなく、常に牛に気を配っていました。前回と同じ会場で開催された全日本共進会で、外谷牧場として初めての優等賞を受賞。受賞した瞬間に、いつもサポートしてくれる家族、地域の酪農家の人たちが、関係各位の皆さんの姿が頭に浮かび、感謝の思いがこみあげました。同時に全国のレベルの高さを思い知らされました。優等賞という結果には満足しておらず、今は次に向けてわくわくしています。

一歩ずつ成長していきたい

今回の全日本共進会への出品が牧場として6回目となり、多回出品特別表彰も受賞。今回の受賞は1人の力ではありません。常に感謝の気持ちを持ち、頑張りたいです。これからも牛と共に明るい酪農の未来を信じて、日々の仕事を大切に、一歩ずつ着実に成長していきたいと思っています。

協力隊 とうしん

照井 周二 さん  
 (てるい・しゅうじ 32歳)



令和7年4月着任。北上市出身。獣医師。山形村短角牛の魅力発信、研修の受け入れに取り組む。



実習生へ去勢手術について説明する照井さん(左)

岩手大学獣医学部の学生が山形町で研修

紅葉の時期が過ぎ、山はすっかり冬支度の山形町。短角牛は山から牛舎に戻り、早春のお産に向けて準備を始めています。振り返ると今年の放牧シーズンには、岩手大学獣医学部から6人の学生をインターンシップで受け入れ、診療や妊娠診断など濃密な経験をしてもらいました。私たちの食の消費の場と生産の場は、地理的にも情報的にも隔たりがあります。遠い生産現場に来て直に体験してもらうことは、これからの学びをさらに深く豊かにするものと思っています。山形村短角牛の生産地の案内、産業動物獣医師の仕事の紹介は、大学生だけでなく小中高校生、社会人、だれでも受け入れていますので気軽に問い合わせください。

今度は学生から私に大学に来て懇談をしてほしいとお誘いを頂いたの伺ってきます。その様子は市地域おこし協力隊のFacebookで発信しますので、ぜひご覧ください。



5年に1度開催され乳牛のオリンピックとも呼ばれる第16回全国ホルスタイン共進会



県や全国の共進会の盾やトロフィー



出品牛を見つめる外谷さん



約100頭を飼育する牛舎

●地域おこし協力隊…移住定住促進を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。カフェを中心とした地域の活性化、新規漁業者の確保や水産物の高付加価値化への取り組み、農泊事業の実践と推進、地域資源の商品開発・販路拡大PRなどを行います。